

たくさんの言葉 ひとつの言葉

「頭でっかち」という言葉があります。辞書で調べると、「知識は豊富でも、行動が伴わないこと」とありました。いくら知識があっても、それを実生活（日常生活・社会生活）で活用できなければ、生きて働く「学力」にはなりません。三尻中学校では昨年度から、どの教科の授業でも学習内容と実生活とをつなぐ課題に取り組んできました。今年度の授業でも、例えば1年生の社会では、WBCの試合の放映時間と時差を関連づけて考えたり、2年生の理科では、温度や湿度等の気象データから実際の天候を予想したりする課題に取り組みました。各教科の学習内容と実生活とのつながりを考えるようにしたいですね。

また、三尻中学校では、教科と教科のつながりも大切にしています。実生活では、国語とか数学とか、各教科で学習した内容が単独ではなく、重なり合って存在していることが多いです。本校では特に、国語の授業で学習した内容を他教科で重ねて学習することに重点を置いています。例えば、1年生の国語で学習した「根拠を明確にして、自分の考えを書くこと」は、他教科の学習に重ねることができます。2, 3年生の音楽では、6月末から7月にかけて、曲の鑑賞レポートを書くのだそうです。この授業では1年生の国語で学習した「根拠を明確にして、自分の考えを書くこと」を重ねることができそうですね。三尻中学校では、レポートに限らず、資料を読んだり、発表や話し合いを行ったりする各教科等の学習活動に国語の授業で学習した内容を活かしていくことを大切にしています。

昭和の時代を代表する作詞家・阿久悠さんは、次のような言葉をのこしています。

「たくさんの言葉をもっていると 自分の思うことを十分に伝えられます

たくさんの言葉をもっていると 相手の考えることを正確に理解できます。」

生まれたばかりの子は、言葉をもっていないから「おなかがすいたこと」を泣き声で伝えようとします。成長とともに言葉を獲得し、身近な家族から小学校や中学校の友達、そして社会へとコミュニケーションを広げていくのです。その時に、阿久悠さんが言うとおり「たくさんの言葉をもっている」ことはとても大切なことだと思います。

言葉の学習は、学校では国語が中心ですが、どの教科でもたくさんの言葉を学習します。日常生活でもたくさんの言葉に出会うはずですが、意識して良質の言葉に触れてほしいものです。良質の言葉を通して、自分の生活が豊かになることがあります。

私にとって、それは「麦秋（ばくしゅう）」という言葉です。今の時季、麦畑は一面美しい黄金色に染まっています。三尻中学校の周辺は昔から麦畑が多かったです。幼いころの私にとって、この情景は季節とのミスマッチ（初夏といえば青葉、でも麦は…）も相まって、印象に残るものでした。この情景を「麦秋」と表現することを知ったのは大人になってからでした。「麦秋」という言葉が、幼いころから見ていた美しくも不思議な情景と自由に伸び伸びと畑のまわりを駆け回っていた思い出…そういった全てを包み込み、保存してくれているように感じています。私は「麦秋」という言葉と出会い、心も豊かになりました。

言葉に関する掲示物が本校にもあります。その1つは北原白秋の詩「ひとつの言葉」です。どこにあるか探して見てください。ぜひ読んでみてください。

成長過程の真ただ中である皆さんには、たくさんの言葉と出会い、ひとつの言葉を大切にしたいと願っています。

熊谷市立三尻中学校長 田沼良宣